



官報合格

石田さん（女性）

■ 受験歴

年	受験科目	所属	勉強スタイル
H19	簿記論(不合格 D 判定) 財務諸表論(不合格 A 判定)	一般企業勤務	専門学校の 通学・通信 講座を中心 に学習
H20	簿記論 合格! 財務諸表論 合格! 法人税法(不合格 D 判定) 消費税法(不合格 D 判定)	一般企業勤務 (直前3ヵ月間 のみ受験専念)	
H21	消費税法(不合格 A 判定)	一般企業勤務	
H22	消費税法 合格!		
H23	法人税法 合格!		
H24	所得税法(不合格 A 判定)		
H25	所得税法 合格!		

受験スタート時、専門学校講師からの勧めで本誌のことを知る。セカンドオピニオンとして活用し、今年晴れて『会計人コース』から卒業。

Q1 『会計人コース』をどのように使っていましたか？

◇問題集として

簿・財受験では、付録の計算問題集をよく利用していました。学校の問題集を何度か解くとマンネリになってしまうので、新鮮な気持ちで取り組むことができました。税法受験では、毎年、本誌7月臨時増刊号『理論問題 できる順予想号』が参考になりました。自分の通っている学校以外の予想を知ることができ、**偏りのない対策を取ることができました。**

『会計人コース』は大原やTAC、LECなど専門学校の講師の方々をはじめ、学者や実務家など、さまざまな先生方が問題やトレーニングを作られているので、1つの専門学校の教材で慣れてしまっていると解きづらいものやレベルが高いと感じる説明もありましたが、**本試験に対応するためには、こうした問題を解くのはとても役立つ**と思います。

◇他の教材との使い分けなどについて

専門学校の教材は膨大な量があるのに対し、『会計人コース』の連載など、特に税法については、限られたページ数で、学校のテキストとは違う観点からの説明があったり、**大切なところが集約されていたりして、内容がとても濃かった**という印象があります。しっかり読んで問題まで解いてみると、意外に時間がかかりました。

なかでも、私が法人税法を受験した平成23年に連載されていた羽柴先生の「ハイパー・トレーニング」は、何度も読み込んで理解を深めていきました。紹介された語呂合わせで覚えたものが、**そのまま本試験に出題された**ので、驚くとともに、とても感謝しています！



◇モチベーション維持について

財表を受験した年の付録「コンパクト要点整理」(平成20年1&4月号)は夫婦2人で奪い合うようにしてボロボロになるまで使いこみました。他の年の直前期の付録でも、欄外に各先生方のメッセージがあったりして、試験直前にヤル気を高めてくれました。

他にも、合格体験記の中から自分の環境に似た方の勉強方法を参考にしたり、「私の独立開業日誌」を読んで将来像を想像してモチベーションを高めたりしました。

税法についてのコラムや、気分転換になりそうな記事やマンガなど、専門学校の教材にはなかなかないものが多数あり、興味深く読んでいました。実はトレーニングよりもそちらのページを先に開くことが多かったのですが…(笑)。

本試験後、合格発表後、ゴールデンウィーク前後、試験直前など、時期に合わせたアドバイス(メンタル面も含め)が多く載っているので、学習ペースもさることながら、どちらかという**精神的なペースメーカー**として助けられたかもしれません。



Q2 「もっとこうしておけばよかった」と思う勉強方法がありますか？

受験初年度は、税理士試験がどのようなものであるかを知らなさすぎて、直前期になって専門学校の答練が急に難しくなり、びっくりしたことがあります。いま思うと、**時間がなくて過去問にあまり手がつけられなかった年は、不合格になることが多かった**ようです。早い段階から過去問レベルの問題を、解けなくてもいいからもっと見ておけばよかったと感じています。

(そういえば『会計人コース』には、早い時期から過去問が多く紹介されていますね。『会計人コース』をもっと真面目にやればよかったということでしょうか??)

Q3 合格の勝因は何だと思いますか？

これさえすれば、というものが無い試験だと思いますが、あえて言うなら私の場合は次の三点でしょうか。

第一に、**自分を知り、相手(試験)を知ること**。自分の強みと弱みを分析し、試験の合格レベルを把握すること。そして、合格のために何が足りないか、何をすればよいかを研究すること。

第二に、**できるだけ楽しむこと**。思ったより長丁場となってしまうので、少しでも受験生活が楽しくなるように心がけました。確かに受験勉強中は辛いことも多いですが、学習中に発見があったり(何かと何かがつながったとか)、問題が解けたときの気持ち良さを感じたり。楽しくないとなかなか続けられません。

最後に、**プロのアドバイスを聞くこと**。専門学校の先生や『会計人コース』で紹介された方法など、その道のプロのアドバイスは素直に聞くことです。時間的に厳しくて、実行できなかったことももちろんありますが…。個別に相談できればベストです。私は通っていた学校の先生に勉強の進め方について時々相談にのっていただきま



した。さまざまなアドバイスを自分なりにアレンジして工夫を重ねることも効果が大きいと思います。

Q4 勉強で工夫していたことはありますか？

1 仕事と受験の両立には「時間」と「場所」の確保が大切！

仕事をしながらの受験だったので、勉強時間と場所の確保には、とにかくいろいろと試行錯誤しました。行き着いたのが次の方法です。

朝 5:30 に起床



早い時間の電車に乗り，座って理論の学習



通勤途中にファストフード店へ。



1 時間ほど計算問題を解いてから出社

また，専門学校での講義前の教室は自習室より人が少なく，短時間でも集中できました(ただし，勉強し過ぎると講義中に疲れてしまいますが…)。**私の場合は「机の前に座れる環境のときは計算問題，そのほかは理論」を基本にしています。**



2 基本&改正項目を押さえ，苦手をなくす！

試験勉強を何年か続けるうち，**どの科目でも基本項目と改正項目を押さえることが，かなりポイントとなる**ことに気づき，常にこれらを意識しながら勉強しました。基本項目については，4月頃まで個別問題を中心に進めました。主に学校の計算問題集を使用し，解いた日付を目次に記入し，できなかった問題には日付を丸で囲みました。2度目はその横に記入。これを何度か繰り返すと，目次をみただけで自分の苦手分野(丸ばかりのところ)が一目瞭然。丸の多い項目だけ復習して，苦手をなくすことに注力しました。

『会計人コース』では，**専門学校のテキストより相当少ない誌面ながら，これらの項目は必ず取り上げられているため，『会計人コース』に載っている内容はかなり重要だ**ということがわかります。

教室で先生に紹介されたことや『会計人コース』で読んだ勉強方法などから，「これ！」と思ったものを自分なりにアレンジして工夫をし続けました。受験科目や環境の変化に合わせて，勉強方法を模索していきました。

Q5 振り返って「これはうまくいった」と思う勉強方法がありますか？

どうしても覚えられないものなどを夫と一緒に**紙に書いて壁に貼っていました**。最初は目につくところやトイレの壁などからでしたが，そのうち家中が紙だらけになってしまいました(笑)。少しやりすぎだったかもしれませんが，効果はあったと思います。



また、不合格だった年は、**本試験の「結果通知書」も壁に貼っていました**。私の場合は A 判定が多かったのですが、A 判定はかなり悔しいです（経験がある人はわかるとは思います）。ヤル気が出ない時など、その通知書を見て「今年こそ！」と自分を奮い立たせていました。

我が家は夫婦で同じ科目を同じ年に受験していたため、7年間ほぼずっと同じ科目の勉強をしていました。よかったことは、勉強していて疑問点があると、お互いに質問し合ったり、話しあったりできたことです。夕食の話題がその日受けた演習の問題についてということもしょっちゅうありました。私は、演習でケアレスミスなどの悔しい間違いをしたときは、夫に話すようにしていました。**本当は他人に言いたくないような恥ずかしい間違いも多々ありましたが、人に話すことによって今回は気をつけようといった意識づけができた**ような気がします。

夫・石田さんからのメッセージ

「税理士試験は、あきらめなければ合格できる試験です。」

2006年12月、40歳を目前にして何か資格でも取ろうかと考えていた私がとりあえず覗いてみるかと気軽に行ったLECのガイダンスで、開業したばかりの人が熱く語っていました。

そんなものかと、当時39歳9ヶ月の私は軽い気持ちで簿記3級の勉強を始めました。それと同時にLECで税理士簿財の速習コースを申し込みました。それまでずっと営業職だった私は経理の経験も知識も全くありませんでした。それが長く深い苦しみの始まりでした。

2013年12月、官報合格した私は46歳9ヶ月になっていました。初年度(2007年、40歳)の簿財ダブルDからスタートし、7回目の受験で官報合格を果たしました。私の40歳代は、税理士試験がすべてでした。

今思えば無謀なチャレンジでしたが、「アホの一念岩をも通す」、あきらめなければ合格できます。

苦しみが大きいほど、合格の喜びが大きくなります。人生を賭ける甲斐があります。

こんな経験ができたのはとても幸せなことだと思います。

これからは、日本に7万人いる税理士の中でいかに独自のポジションを築くか、本当の勝負が始まります。

並木先生、羽柴先生には、教室でも誌面でも勇気づけられました。心から感謝しています。